

## 国外実態調査報告書

テーマ : NX オーストラリアの物流事業について  
ゼミ名 : 木立 真直 ゼミ  
調査日 : 2024年9月3日(火)  
調査先 : 【オーストラリア】  
授業科目名 : 演習Ⅲ・Ⅳ・GFSⅡ  
参加学生数 : 18名(年生)

### 調査の趣旨(目的)

私たちの生活のみならず、社会においても重要な役割を果たす物流業界が抱える課題や、今後の見通しについて考察する。また、物流において、日本とオーストラリアではどのような違いがあるのかを調査する。

### 調査結果

初めに、大隅様より NIPPON EXPRESS (AUSTRALIA) PTY. LTD. (以下、NX オーストラリアと表記する) の会社概要をご説明していただいた後、ルーク様の説明のもとロジスティクスセンター内を視察した。その後、質疑応答にて笠原様、大隅様よりオーストラリアの物流の特徴について学んだ。

#### 《事業説明》

NX オーストラリアはシドニーとメルボルンに支店を構えるが、今回伺ったメルボルン支店(以下、ロジスティクスセンターと表記する)では、ロジスティクスソリューションを主体としながら幅広い物流サービスを展開している。物流サービスの具体的な一例としては、お客様が仕入れた商品の仕分け、梱包、保管、トラック配送など、納品先に届けるまでの3PL事業を行っている。ロジスティクスセンターの施設は常温倉庫のため、温度に左右されない商材を中心に取り扱っている。現在の主な取引先は日系企業が多く、ローカル企業との取引割合を増やしていくことが目標であると伺った。NX オーストラリアでは、お客様の生産活動からラストワンマイルまでをカバーする「End to End」の物流サービス展開を目指している。そのため、顧客が求めるニーズに対して最適な方法を提案することを特に大切にしている。

#### 《倉庫説明》

ロジスティクスセンターではルーク様から、英語で説明をしていただいた。この物流倉庫の中では「物流の6大機能」と呼ばれる、荷役・保管・流通加工・情報・包装・配送の全てを行うことができる。お客様からの出荷指示書を受け取ると、それに書かれた商品を手作業でピッキングし、梱包、そして輸送している。また、納品先での仕分けがしやすいように、商品分類ごとに設置した棚からピッキングをして、商品が混在しないように納品先ごとに設

けられた専用エリアで、商品分類ごとに梱包を行っている。実際に倉庫内を見学した際、私たちの想像より、人の手がある仕事が多いと感じた。「何を、どこまで自動化するのか」を見極めることが重要であるというお話を聞き、自動化をしない選択肢があることを学んだ。質疑応答の時間では、オーストラリアの物流の特徴についてお話を伺った。オーストラリアは日本の20倍の国土があるため、最適な輸送方法を見つけ出すのがとても難しいと学んだ。日本の物流との違いを教わり、私たちが普段体験している物流は一つの形であり、共通のことではないと学ぶことができ、大変有意義な時間となった。

倉庫見学や私たち学生の質問に丁寧に対応してくださり、ありがとうございます。今回私たちの訪問を受け入れて下さった笠原様、大隅様、ルーク様に心より感謝申し上げます。



(NX オーストラリア Melbourne Branch にて )

(文責：三澤、小野瀬、遠江、上村)